

2 森の中に入っていこう
(4)草花を見よう

草花を見よう

平成27年6月から平成29年3月実施

草花配置図(概要)

調査歴	区分	調査日時	天気・温度湿度	班
調査1		平成27年6月20日10時	晴・25度60%	I・II
調査2		平成28年3月12日10時	曇・12度43%	I・II
調査3		平成28年4月16日10時	晴・20度40%	I・II

(注意)
調査地の森では、土地所有者及び市の同意無しに、動植物及び菌類の捕獲、採取、殺傷又は損傷はできません。

～森で見られた草花たちの一覧～

	名前	種類	観察季節	区域	雑木林視点の要約(雑木林との関わり)	頁
1	アズマネザサ	多年草	春	B	下草刈り等ができず、放置された雑木林では林床を一面覆ってしまう。	25
2	イチヤクソウ	多年草	春	A・C	雑木林の典型的な林床草本。	25
3	ウラシマソウ	多年草	春	C	雑木林で比較的多く見ることができる。	25
4	オオアレチノギク	一年草	春	A	外来種である。雑木林の林辺に侵入することが多く、内部には稀である。	26
5	オオバギボウシ	多年草	春	B	雑木林で見られることもある。	26
6	オニドコロ	多年草	春	A	雑木林の林縁部でよく見かける、つる植物である。	26
7	カラスノエンドウ	二年草	春	C	現在は雑木林の林辺に繁茂する。	26
8	カンスゲ	多年草	春	A	雑木林の林縁部で見かける。	26
9	カントウタンポポ	多年草	春	A	雑木林の草本というより、芝地など草原に群生する草本。	27
10	キンラン	多年草	春	A	典型的な雑木林の野草である。絶滅危惧種(環境省)	27
11	ギンラン	多年草	春	A	キンラン同様に雑木林の典型的な野草である。	27
12	クズ	多年草	春	A	雑木林の林縁部で大量に繁茂することもある。	27
13	クチナシグサ	多年草	春	A	雑木林で比較的多く見ることができる。	27
14	クロッカス	多年草	春	A	外来種の園芸植物。雑木林に侵入することはない。	27
15	コオニタビラコ	二年草	春	A	雑木林より、どちらかというと田圃など人里の草本である。	28
16	ササバギンラン	多年草	春	B	雑木林の典型的な植物でギンランの一種。	28
17	サルトリイバラ	多年草	春	A・C	雑木林で見られることもある。	28
18	シオデ	多年草	春	C	雑木林の林縁部で見かける。	28
19	シャガ	多年草	春	C	雑木林にも存在するが、人里の植物。	28
20	シュンラン	多年草	春	A	雑木林の林床を代表するラン。	29
21	シラヤマギク	多年草	春	A	雑木林の林縁部の明るい場所でも見られる。	29
22	スイセン	多年草	春	C	雑木林の野草ではない。典型的な園芸植物。	29
23	スマレ外来種	多年草	春	C	特に林辺部に侵入し、夏には大きな葉を構成する。	29
24	セイヨウタンポポ	多年草	春	A	一般的には雑木林で見ることができない。	29
25	センニンソウ	多年草	春	B	雑木林の林縁部でよく見かけるつる植物。	30
26	タケニグサ	多年草	春	C	雑木林で見られることもある。	30
27	タチツボスミレ	多年草	春	A	雑木林の典型的な野草である。	30
28	チゴユリ	多年草	春	A	雑木林、林床に群生する典型的な草本。	30
29	ツリガネニンジン	多年草	春	B	雑木林の明るい場所で見かける。	30
30	ニガナ	多年草	春	A	近年は雑木林の林縁部に群生するが、本来は里地の植物である。	31

草花を見よう

	名前	種類	観察季節	区域	雑木林視点の要約(雑木林との関わり)	頁
31	ヌスビトハギ	多年草	春	B	雑木林で見られることもある。	31
32	ネジバナ	多年草	春	A	雑木林でも見かけるが、草地(造成地)でよく見かける。	31
33	ノボロギク	一年草	春	B	雑木林内部には侵入しないが、まれに見かける。	31
34	ヒガンバナ	多年草	春	A	本来は里地や草地の植物で田の畔や土手に群生する。	31
35	ヒトリシズカ	多年草	春	A	雑木林林床の典型的な草本。コナラ等の展葉前に開花する。	31
36	ヒメカンスゲ	多年草	春	A	雑木林で普通に見られるイネ科の植物。	32
37	ヒメジョオン	一年草	春	B・C	雑木林や里地・人家の周辺で見かける。	32
38	ヒヨドリバナ	多年草	春	C	雑木林で見ることがある。	32
39	フキノトウ	多年草	春	A	雑木林や里地・人家の周辺で見かける。	32
40	フデリンドウ	二年草	春	A	山野の日当たりよりところに生える。雑木林の林縁部でも見られる。	33
41	ヘクソカズラ	多年草	春	B	ヤブカラシやクス等のように雑木林の林縁部で大量に繁茂することもある。	33
42	ヘビイチゴ	多年草	春	B・C	雑木林の林縁で見られることもある。	33
43	ホウチャクソウ	多年草	春	A	雑木林で見られることもある。林床部で生えている。	33
44	ホタルブクロ	多年草	春	C	雑木林で見かける。	33
45	ホトギス	多年草	春	B	雑木林でも見かける。	34
46	マヤラン	多年草	春	B	雑木林の菌類から栄養を摂取している、根も葉も無い植物。	34
47	マルバスマシレ	多年草	春	B	雑木林などで見かけるスマシレの一つ。	34
48	ミズヒキ	多年草	春	B	雑木林で比較的多く見ることができる。	34
49	ミツバツチグリ	多年草	春	A	雑木林でも人里でも見かける草本。	34
50	リンドウ	多年草	春	A	雑木林の明るい林縁部に見かける。	34

～森で見られた草花たちの特徴や写真～

平成27年6月から平成29年3月実施

草	1	H27年	春	1	種類	アズマネザサ
						
班名	調査日	区域				
II	27.6.20	B				
特徴	篠竹。常緑性の笹。高さ3～4m。関東や東北地方で多く見ることができることからアズマ(東)の名前がついた。					
雑木林視点	下草刈り等ができず、放置された雑木林では林床を一面覆ってしまう。					

草	2-1	H27年	春	27	種類	イチヤクソウ
						
班名	調査日	区域				
I	27.6.20	C				
特徴	常緑の宿根草本で、腐葉土の多い林の中に生息する。名はくすりになることから、一葉草となった。					
雑木林視点	雑木林の典型的な林床草本。					

草	2-2	H28年	春	1	種類	イチヤクソウ
						
班名	調査日	区域				
I	28.3.12	A				
特徴	常緑の宿根草本で、腐葉土の多い林の中に生息する。名はくすりになることから、一葉草となった。					
雑木林視点	雑木林の典型的な林床草本。					

草	3	H28年	春	25	種類	ウラシマソウ
						
班名	調査日	区域				
II	28.4.16	C				
特徴	多年草。高さ30～50cm鳥足状の葉。糸状形態に伸びた花穂の一部を浦島太郎の釣り糸に見立てた。薄暗い湿った林を好む。					
雑木林視点	雑木林で比較的多く見ることができる。					

草花を見よう

平成27年6月から平成29年3月実施

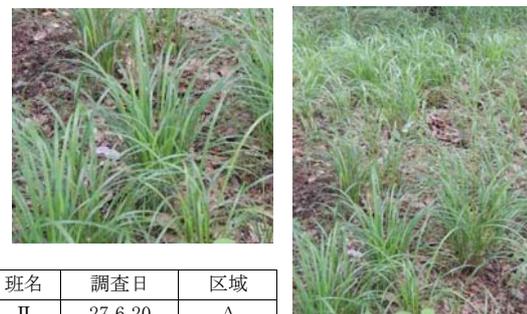
草	4	H28年	春	2	種類	オオアレチノギク
						
班名	調査日	区域				
II	28.3.12	A				
特徴	一年草。成長すると1.5から2mになる。外来種。花期(7~10月白色多数の花)					
雑木林視点	外来種である。雑木林の林辺に侵入することが多く、内部には稀である。					

草	5	H27年	春	2	種類	オオバギボウシ
						
班名	調査日	区域				
II	27.6.20	B				
特徴	多年草。高さ50~100cm。葉の長さは30~40cm、幅は10~15cmくらいになる。日陰でも育つ宿根草。葉脈の流れが流線形で美しい。					
雑木林視点	雑木林で見られることもある。					

草	6	H27年	春	28	種類	オニドコロ
						
班名	調査日	区域				
II	27.6.20	A				
特徴	ハート型の葉をもつ、宿根草のつる植物で、雌雄異株である。					
雑木林視点	雑木林の林縁部でよく見かける、つる植物である。					

草	7-1	H28年	春	3	種類	カラスノエンドウ
						
班名	調査日	区域				
II	28.3.12	C				
特徴	2年草。高さ50~90cm。花期(3~6月紅紫色の蝶形の花)葉の先端は巻きひげとなる。6~7月に長さ3~5cmの黒色のさやの豆果を付けることからカラスと名がついたといわれる。					
雑木林視点	古い時代に栽培作物として移入された痕跡がある。現在は雑木林の林辺に繁茂する。					

草	7-2	H28年	春	29	種類	カラスノエンドウの花
						
班名	調査日	区域				
II	28.4.16	C				
特徴	2年草。高さ50~90cm。花期(3~6月紅紫色の蝶形の花)葉の先端は巻きひげとなる。6~7月に長さ3~5cmの黒色のさやの豆果を付けることからカラスと名がついたといわれる。					
雑木林視点	古い時代に栽培作物として移入された痕跡がある。現在は雑木林の林辺に繁茂する。					

草	8	H27年	春	3	種類	カンスゲ
						
班名	調査日	区域				
II	27.6.20	A				
特徴	多年草。冬も葉を付けている。高さ30cm超えるものも。葉の長さは30~40cm、幅は4~7mmになり地際から生える。3~4月に白・灰色の長めのブラシのような花を咲かせる。葉が固いため笠や蓑などに利用された。					
雑木林視点	雑木林の林縁部で見かける。					

草花を見よう

平成27年6月から平成29年3月実施

草	9	H28年	春	21	種類	カントウタンポポ
						
班名	調査日	区域				
I	28.4.16	A				
特徴	<p>多年草。高さ30cm～1m。花の真下の総苞片がめくれているものが外来種、めくれないのが在来種。開花(3月～5月)</p>					
雑木林視点	<p>雑木林の草本というより、芝地など草原に群生する草本。</p>					

草	10	H27年	春	4	種類	キンラン
						
班名	調査日	区域				
II	27.6.20	A				
特徴	<p>多年草。高さ30～70cm。葉が長楕円形で長さ8～15cm。チューリップの葉が何段も重なったようである。開花(4～6月金色)</p>					
雑木林視点	<p>典型的な雑木林の野草である。絶滅危惧種(環境省)</p>					

草	11	H28年	春	16	種類	ギンラン
						
班名	調査日	区域				
I	28.4.16	A				
特徴	<p>多年草。高さ10～30cm。花期4～5月、白花、花は全開せず半開で終わる花。白色の花であるが、黄色色のキンランに対比してギンランと名付けられた。</p>					
雑木林視点	<p>キンラン同様に雑木林の典型的な野草である。絶滅危惧II類(東京都)</p>					

草	12	H27年	春	5	種類	クズ
						
班名	調査日	区域				
II	27.6.20	A				
特徴	<p>つる性の落葉植物。秋の七草の一つ。葛。根を用いて食品の葛粉が作られる。開花(8-9月、房状の紫色) 葉の裏の白さが目立つことから裏見草(うらみぐさ)ともいう。</p>					
雑木林視点	<p>ヤブカラシやヘクソカズラ等のように雑木林の林縁部で大量に繁茂することもある。</p>					

草	13	H28年	春	18	種類	クチナシグサ
						
班名	調査日	区域				
I	28.4.16	A				
特徴	<p>多年草。高さ10～20cm。へら形の花。果実がクチナシの実に似ている。開花(4～5月白色)</p>					
雑木林視点	<p>雑木林で比較的多く見ることができる。</p>					

草	14	H28年	春	4	種類	クロッカス
						
班名	調査日	区域				
II	28.3.12	A				
特徴	<p>球根植物。高さ10～20cm。花期(2～4月黄・白・藤色等)観賞用。</p>					
雑木林視点	<p>外来種の園芸植物。雑木林に侵入することはない。</p>					

草花を見よう

平成27年6月から平成29年3月実施

草	15	H28年	春	31	種類	コオニタビラコ
						
班名	調査日	区域				
I	28.4.16	A				
特徴	<p>小鬼田平子と書く。いわゆる春の七草のホトケノザである。冬の時期に地面にぴたっとへばりついたロゼットはあたかも仏の座を思わせる。春には花茎が大きく伸びて黄色い小さな花が咲く。</p>					
雑木林視点	<p>雑木林より、どちらかという和田圃など人里の草本である。</p>					

草	16	H27年	春	6	種類	ササバギンラン
						
班名	調査日	区域				
I	27.6.20	B				
特徴	<p>多年草。高さ40～50cm。葉の長さは8～15cm。ギンランに似ているが大きめである。花期(4～5月白色)長い葉が笹の葉を思わせることから名がついたとも言われる。</p>					
雑木林視点	<p>雑木林の典型的な植物でギンランの一種。</p>					

草	17	H27年	春	24	種類	サルトリイバラ
						
班名	調査日	区域				
I・II	27.6.20	A・C				
特徴	<p>つる性の多年草。茎に棘があり。1～3mほど這うように伸びていく。藪になったところに猿が追い込まれて動けなくなってしまうことから呼ばれる。</p>					
雑木林視点	<p>雑木林で見られることもある。</p>					

草	18	H27年	春	25	種類	シオデ
						
班名	調査日	区域				
I	27.6.20	C				
特徴	<p>多年草。つる性植物。葉はハート型で5-15cm。線香花火のような変わった形の花が咲く。開花(5-7月淡黄緑色)</p>					
雑木林視点	<p>雑木林の林縁部で見かける。</p>					

草	19-1	H28年	春	5	種類	シャガ
						
班名	調査日	区域				
II	28.3.12	C				
特徴	<p>多年草。高さ50～60cm。葉は厚みがあり線状に伸びる。花期(4～5月白紫色のアヤメに似た花)地下茎で増える。</p>					
雑木林視点	<p>古い時代に中国から日本に帰化した草本植物。雑木林にも存在するが、人里の植物。</p>					

草	19-2	H28年	春	23	種類	シャガの花
						
班名	調査日	区域				
I	28.4.16	C				
特徴	<p>多年草。高さ50～60cm。葉は厚みがあり線状に伸びる。花期(4～5月白紫色のアヤメに似た花)地下茎で増える。</p>					
雑木林視点	<p>古い時代に中国から日本に帰化した草本植物。雑木林にも存在するが、人里の植物。</p>					

草花を見よう

平成27年6月から平成29年3月実施

草	20	H28年	春	6	種類	シュンラン
						
班名	調査日	区域				
I	28.3.12	A				
特徴	<p>多年草。高さ20～60cm。葉は常緑で線状に伸びる。花期(3～4月淡黄緑色)地下茎で増える。春蘭、ジジババやホクロ等様々な呼び名がある。</p>					
雑木林視点	<p>雑木林の林床を代表するラン。早春に開花するのでこの名がある。</p>					

草	21	H27年	春	7	種類	シラヤマギク
						
班名	調査日	区域				
I	27.6.20	A				
特徴	<p>多年草。高さ1m程度。花期8～10月、舌状の花は白色。葉は心形で先は鋭くとがる。別名ムコナ(婿菜)</p>					
雑木林視点	<p>山地の乾いた草地や道端等に生える。雑木林の林縁部の明るい場所でも見られる。</p>					

草	22-1	H28年	春	7	種類	スイセン
						
班名	調査日	区域				
II	28.3.12	C				
特徴	<p>多年草。球根。高さ15～40cm。花期(12～3月白・黄色等)葉は扁平で艶消しの緑色。水仙。別名「雪中花」。</p>					
雑木林視点	<p>雑木林の野草ではない。典型的な園芸植物。園芸種が多く球根で林内で捨てられ生育することがある。</p>					

草	22-2	H28年	春	27	種類	スイセンの結実
						
班名	調査日	区域				
II	28.4.16	C				
特徴	<p>多年草。球根。高さ15～40cm。花期(12～3月白・黄色等)葉は扁平で艶消しの緑色。水仙。別名「雪中花」。</p>					
雑木林視点	<p>雑木林の野草ではない。典型的な園芸植物。園芸種が多く球根で林内で捨てられ生育することがある。</p>					

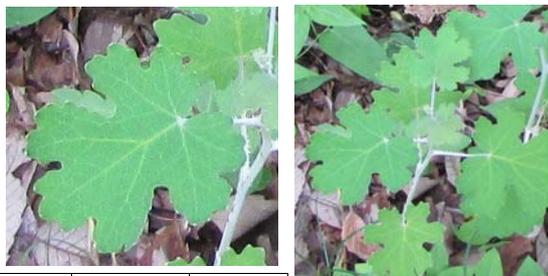
草	23	H28年	春	19	種類	スマレの外来種
						
班名	調査日	区域				
I	28.4.16	C				
特徴	<p>多年草。葉は三角やハート型。花期(3～5月濃紫等)花の形状が大工道具の墨入れに似ていることから由来する説があり。種類が多くパンジーやビオラなどの園芸品種も多い。</p>					
雑木林視点	<p>外来種のスマレである。特に林辺部に侵入し、夏には大きな葉を構成する。</p>					

草	24	H28年	春	20	種類	セイヨウタンポポ
						
班名	調査日	区域				
I	28.4.16	A				
特徴	<p>多年草。高さ30cm～1m。花の真下の総苞片がめくれているものが外来種、めくれないのが在来種。開花(春～夏)</p>					
雑木林視点	<p>一般的には雑木林で見ることができない。</p>					

草花を見よう

平成27年6月から平成29年3月実施

草	25	H27年	春	8	種類	センニンソウ
						
班名	調査日	区域				
I	27.6.20	B				
特徴	つる性の多年草。日当たりの良いところを好む。花期(8~9月 白色) 実の先端に付く白い糸状のものを仙人の髭にみえることからと言われている。					
雑木林視点	雑木林の林縁部でよく見かけるつる植物。					

草	26	H27年	春	9	種類	タケニグサ
						
班名	調査日	区域				
II	27.6.20	C				
特徴	多年草。高さ1~2m。葉は10~30cmと大きく、菊の葉に似ている。竹と一緒に煮ると軟らかくなって加工しやすいとの話もある。					
雑木林視点	雑木林で見られることもある。伐採跡地や萌芽更新地で先駆的に発芽成長する。					

草	27	H28年	春	9	種類	タチツボスミレ
						
班名	調査日	区域				
II	28.3.12	A				
特徴	多年草。高さ5~10cm。心臓形の葉。花期(3~5月 淡紫色)。スミレとの違いは、葉が根出しだけでなく茎からも伸びる。葉が丸みを帯びている。					
雑木林視点	雑木林の典型的な野草である。					

草	28	H28年	春	17	種類	チゴユリ
						
班名	調査日	区域				
I	28.4.16	A				
特徴	多年草。花期4~6月、花弁6つ、白色。花後に黒色の果実を付ける。小さくて可愛いことから、名の由来がある。					
雑木林視点	雑木林、林床に群生する典型的草本。					

草	29-1	H27年	春	10	種類	ツリガネニンジン
						
班名	調査日	区域				
II	27.6.20	B				
特徴	多年草。高さ0.4~1m。葉は細長い楕円形で長さ5~10cm、鋸歯あり。花期(8~10月 淡紫色の釣り鐘型の花を数段に分けて咲かせる)					
雑木林視点	雑木林の明るい場所で見かける。					

草	29-2	H28年	春	26	種類	ツリガネニンジン
						
班名	調査日	区域				
II	28.4.16	B				
特徴	多年草。高さ0.4~1m。葉は細長い楕円形で長さ5~10cm、鋸歯あり。花期(8~10月 淡紫色の釣り鐘型の花を数段に分けて咲かせる)					
雑木林視点	雑木林の明るい場所で見かける。					

草花を見よう

平成27年6月から平成29年3月実施

草	30	H27年	春	11	種類	ニガナの花
						
班名	調査日	区域				
I・II	27.6.20	A				
特徴	<p>多年草。高さ40-70cm。茎は白汁があり苦味が多いことから名の由来になっている。苦菜。茎の先端で枝分かれし1.5cmぐらいの黄色の頭花をつける。開花(5-7月黄色)</p>					
雑木林視点	<p>近年は雑木林の林縁部に群生するが、本来は里地の植物である。</p>					

草	31	H27年	春	29	種類	ヌスビトハギ
						
班名	調査日	区域				
I	27.6.20	B				
特徴	<p>多年草。高さ0.6~1.2m。開花(7月~9月)薄紅色の3mm程度の小さな花が茎先にまばらに咲く。果実が盗人の忍び足の形に似ているとの説もある。</p>					
雑木林視点	<p>雑木林で見られることもある。</p>					

草	32	H27年	春	12	種類	ネジリバナ
						
班名	調査日	区域				
II	27.6.20	A				
特徴	<p>多年草。高さ5-20cm。葉は長さ5-20cm幅3-10mmの線状形で先はとがる。小さなピンク色の花が20個以上らせん状に咲く。開花(6-9月淡紅色) ネジリバナ。</p>					
雑木林視点	<p>雑木林でも見かけるが、草地(造成地)でよく見かける。</p>					

草	33	H28年	春	10	種類	ノボロギク
						
班名	調査日	区域				
II	28.3.12	B				
特徴	<p>一年草。高さ20~40cm。葉はギザギザ。花期(2~12月黄色)。タンポポの様な綿毛を付けた種子を飛ばす。</p>					
雑木林視点	<p>明治時代にヨーロッパから移入した草本植物。雑木林内部には侵入しないが、まれに見かける。</p>					

草	34	H28年	春	11	種類	ヒガンバナ
						
班名	調査日	区域				
II	28.3.12	A				
特徴	<p>多年草。秋の彼岸の頃に花茎がすっと高さ30~50cm伸び先端に5~8個の花(赤・白等)を咲かす。まとまって咲くので全体が線香花火のように見える。花が終わってから線状の葉が30~50cm伸びる。別名マンジュシャゲともいう。</p>					
雑木林視点	<p>本来は里地や草地の植物で田の畔や土手等に群生する。近年は雑木林の林縁でも見られる。中国から渡来した帰化植物。</p>					

草	35-1	H27年	春	13	種類	ヒトリシズカ
						
班名	調査日	区域				
I	27.6.20	A				
特徴	<p>早春に4枚の照り輝く葉の真ん中からブラッシ状の真っ白い花は気品がある。宿根草で群生する。</p>					
雑木林視点	<p>雑木林林床の典型的な草本。コナラ等の展葉前に開花する。</p>					

草花を見よう

平成27年6月から平成29年3月実施

草	35-2	H28年	春	15	種類	ヒトリシズカ
						
班名	調査日	区域				
I	28.4.16	A				
特徴	<p>早春に4枚の照り輝く葉の真ん中からブラッシ状の真っ白な花は気品がある。宿根草で群生する。</p>					
雑木林視点	<p>雑木林林床の典型的な草本。コナラ等の展葉前に開花する。</p>					

草	36-1	H28年	春	12	種類	ヒメカンスゲ
						
班名	調査日	区域				
I	28.3.12	A				
特徴	<p>多年草。高さ10～40cm。花期(3～6月葉は硬く細長く、表面はザラつく。カンスゲに似て小さいことから名の由来がある。</p>					
雑木林視点	<p>雑木林で普通に見られるイネ科の植物。</p>					

草	36-2	H28年	春	30	種類	ヒメカンスゲ
						
班名	調査日	区域				
I	28.4.16	B				
特徴	<p>多年草。高さ10～40cm。花期(3～6月葉は硬く細長く、表面はザラつく。カンスゲに似て小さいことから名の由来がある。</p>					
雑木林視点	<p>雑木林では、ナラヤクスギの樹下でよく咲く。</p>					

草	37	H27年	春	14	種類	ヒメジョオン
						
班名	調査日	区域				
I・II	27.6.20	B・C				
特徴	<p>一年草。高さが50-100cm。細長い葉。マーガレットの花の白い部分が細かくなったような花を咲かせる。似ているハルジオンは大きめで蕾が下を向いている。外来種である。左の写真はヒメジョオンのロゼット状の写真。</p>					
雑木林視点	<p>雑木林や里地・人家の周辺で見かける。</p>					

草	38	H27年	春	15	種類	ヒヨドリバナの蕾
						
班名	調査日	区域				
I・II	27.6.20	C				
特徴	<p>高さ1～2mの多年草。茎が上部で枝分かかれし散房状の花をつける。開花(8-10月白色)ヒヨドリの鳴く頃に花が咲くことから名付けられたとも言われる。オトコエシにも似ているが花柱の先が長く伸び出している。</p>					
雑木林視点	<p>雑木林で見ることがある。</p>					

草	39	H28年	春	13	種類	フキノトウ
						
班名	調査日	区域				
II	28.3.12	A				
特徴	<p>多年草。高さ10-80cm。柄の長い大きな丸い葉。茎は地上には伸びず、地中で地下茎となり横に伸びる。フキノトウは、早春に花茎が伸び出したもの、キャラブキは柄の部分を用いる。</p>					
雑木林視点	<p>雑木林や里地・人家の周辺で見かける。</p>					

草花を見よう

平成27年6月から平成29年3月実施

草	40	H28年	春	22	種類	フデリンドウ
						
班名	調査日	区域				
I	28.4.16	A				
特徴	2年草。高さ5cm～10cm。花期4月～5月、茎の先に長さ2～2.5cmの青紫色の花を付ける。花の形が筆の穂先を思わせることから名の由来がある。					
雑木林視点	山野の日当たりよりところに生える。雑木林の林縁部でも見られる。					

草	41	H27年	春	16	種類	ヘクソカズラ
						
班名	調査日	区域				
I	27.6.20	B				
特徴	つる性の多年草。葉は楕円形で先が細る。花の中央が赤くお灸の跡にも似ているのでヤイトバナとも言う。葉や花などをもんでかぐと嫌な臭いがする。					
雑木林視点	ヤブカラシやクズ等のように雑木林の林縁部で大量に繁茂することもある。					

草	42-1	H28年	春	14	種類	ヘビイチゴ
						
班名	調査日	区域				
II	28.3.12	C				
特徴	多年草。花期4～6月、花弁5つ、黄色。花後に光沢のない赤色の果実を付ける。蛇しか食べないイチゴだという由来もある。					
雑木林視点	田の畔や道端などのやや湿った場所に生える。雑木林の林縁で見られることもある。					

草	42-2	H28年	春	28	種類	ヘビイチゴの花
						
班名	調査日	区域				
II	28.4.16	B・C				
特徴	多年草。花期4～6月、花弁5つ、黄色。花後に光沢のない赤色の果実を付ける。蛇しか食べないイチゴだという由来もある。					
雑木林視点	田の畔や道端などのやや湿った場所に生える。雑木林の林縁で見られることもある。					

草	43	H27年	春	17	種類	ハウチャクソウ
						
班名	調査日	区域				
II	27.6.20	A				
特徴	多年草。高さ30～60cm。袋状の花が2つぶらさがって咲く。あまり開かない。花が軒に吊り下げられる宝篋に似ていることから呼ばれる。開花(4～5月白色)					
雑木林視点	雑木林で見られることもある。林床部で生えている。					

草	44	H27年	春	18	種類	ホタルブクロ
						
班名	調査日	区域				
I	27.6.20	C				
特徴	多年草。高さ10～80cm。葉身は長さ5～8cm幅1～4cmの三角状卵形～針形。長さ4～5cmの大きな鐘形の花をつける。開花(5～8月淡紅紫色または白色で濃色の斑点あり)					
雑木林視点	雑木林で見かける。					

草花を見よう

平成27年6月から平成29年3月実施

草 45 H27年 春 19 種類 ホトギス



班名	調査日	区域
I	27.6.20	B
特徴	多年草。高さ40-70cm。葉は長楕円形。3cmぐらいのロウト形の花。開花(7-10月外側は白色で内側全体に紅紫色の斑点あり)斑点が野鳥のホトギスの胸の斑点に似ていることから「ホトギス」の名になったという説がある。	
雑木林視点	雑木林でも見かける。	

草 46 H27年 春 20 種類 マヤラン



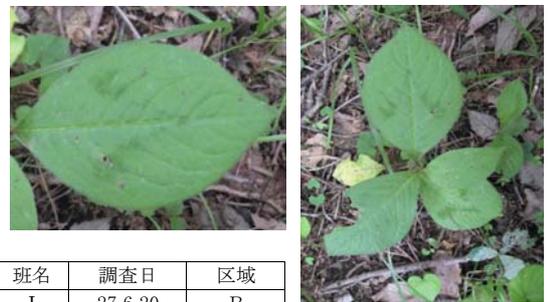
班名	調査日	区域
II	27.6.20	近隣
特徴	常緑広葉樹林などに生える腐生植物。菌類と共生。高さ10~30cm。花期(7~10月白・紫色)環境省絶滅危惧II類指定。	
雑木林視点	雑木林の菌類から栄養を摂取している、根も葉も無い植物。シュンランの仲間。	

草 47 H28年 春 8 種類 マルバスマレ



班名	調査日	区域
I	28.3.12	B
特徴	多年草。葉は丸みのあるハート型。花期(4~5月白・淡紅色等)花の形状が大工道具の墨入れに似ていることから由来する説があり。種類が多くパンジーやビオラなどの園芸品種も多い。	
雑木林視点	雑木林などで見かけるスマレの一つ。	

草 48 H27年 春 21 種類 ミズヒキ



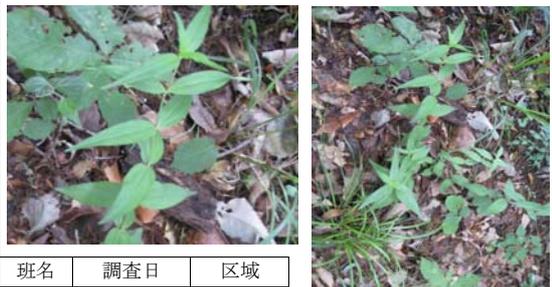
班名	調査日	区域
I	27.6.20	B
特徴	多年草。高さ30~80cm。葉に鼻緒のようなV字型の模様がある。紅白の20~40cm伸びた花穂が水引に似ていることから名が付いた。開花(8~11月紅白色)	
雑木林視点	雑木林で比較的多く見ることができる。どちらかという、林床部で生えている。	

草 49 H27年 春 22 種類 ミツバツチグリ



班名	調査日	区域
I	27.6.20	A
特徴	多年草。高さ15~30cm。葉に楕円3枚の小葉、縁には鋸歯がある。葉の裏が白い。花期(4~6月黄色)	
雑木林視点	雑木林でも人里でも見かける草本。	

草 50 H27年 春 23 種類 リンドウ



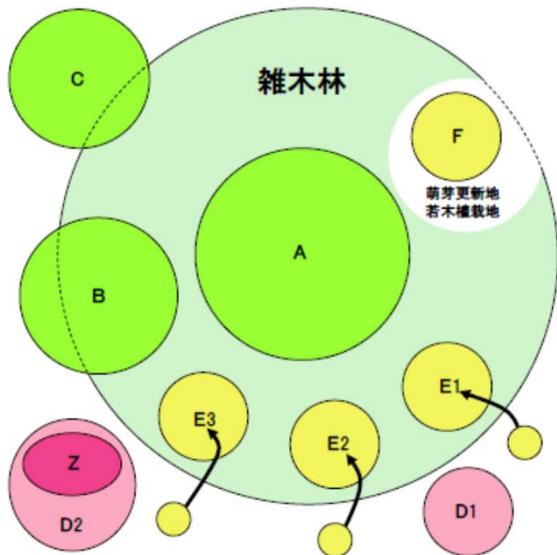
班名	調査日	区域
I	27.6.20	A
特徴	多年草。高さ20~60cm。葉は対生で細長い楕円。花期(9~11月ラッパ型で上を向いて咲く。青紫・紅紫色)	
雑木林視点	雑木林の明るい林縁部に見かける。	

2 森の中に入っていこう
 (5)外来生物等の同定と森の関わりを確認しよう

外来生物等の同定と森の関わりを確認しよう

調査歴	区分	調査日時	天気・温度	班
	調査	平成28年4月16日10時	晴・20度40%	I・II

①外来植物や特定外来植物の雑木林との関わり



- A 典型的な雑木林の樹木・草・キノコ
- B 雑木林で比較的多くみることができる樹木・草・キノコ
- C 雑木林で見ることある樹木・草・キノコ
- D1 園芸植物など本来雑木林で見ることがない樹木・草・キノコ
- D2 外来種など本来雑木林で見ることがない樹木・草・キノコ
- E1 常緑樹木で雑木林に侵入し常緑樹林に遷移してしまう可能性がある樹木
- E2 常緑低木で雑木林に侵入し、雑木林の林床を被圧してしまう可能性のある樹木
- E3 雑木林の景観を著しく損なう可能性のある樹木・草
- F 萌芽更新地・若木植栽地で、つる性植物等の繁茂で成育に悪影響のある樹木・草
- Z 外来植物や特定外来植物で雑木林の生態系に悪影響を及ぼす可能性のある樹木・草・キノコ

②外来植物の中で次の5種類を観察対象とした。

セイタカアワダチソウ・ハルジオン・ヒメジョオン・オオブタクサ・ブタクサ

(平成28年4月16日実施)

確認できた種類	状態	区域
セイタカアワダチソウ ハルジオン ヒメジョオン	ロゼット状態から少し茎が伸びている。	A・B区域の林縁部

③セイタカアワダチソウ・ハルジオン・ヒメジョオンの同定

○セイタカアワダチソウの特徴

多年草。高さ1～3m、5m超える場合もある。花期10～11月、大きな傘形の黄色い花序。葉は被針形で長さ20cm。地下茎をはりめぐらして増える。果実が白く泡立っているように見える。一般的に荒れた草地、河原の土手に大群生し、高さ2.5mにもなる。

○ハルジオン・ヒメジョオンの特徴

一年草。高さが50～100cm。細長い葉。マーガレットの花の白い部分が細くなったような花を咲かせる。ハルジオンの方が先に咲く。葉は茎を抱くように付く。似ているヒメジョオンは蕾が上を向いている。葉は茎を抱かない。ともに里地・人家の周辺で見かける。雑木林に侵入し林縁部で大量に繁茂することもある。

平成28年4月実施



セイタカアワダチソウ



ハルジオン



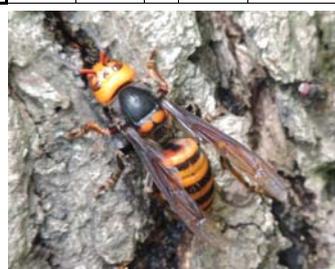
左からセイタカアワダチソウ・ハルジオン・ヒメジョオン

2 森の中に入っていこう

(6)昆虫を見よう

昆虫の発見した場所(概要)	調査 歴	区分 調査	調査日時 平成27年 6月20日 10時	天気・温度 晴・25度60%	班 I・II
					
(注意) 調査地の森では、土地所有者及び市の同意無しに、動植物及び菌類の捕獲、採取、殺傷又は損傷はできません。					

昆虫を見よう

昆虫	1	H27年	春	1	種類	オオスズメバチ
						
班名	調査日	発見区域				
II	27.6.20	A				
特徴	体長は20～50mm、女王バチは大きい。頭部はオレンジ色、胸部は黒色、腹部は黄色と黒色の縞模様。雄バチは毒針を持たない。雑食性。5～10月活動する。					
雑木林視点	樹林地の切株内及び山地の地中に繁殖し生息する。クヌギ等の樹液に集まる。					

昆虫	2	H27年	春	2	種類	ニセノコギリカミキリ
						
班名	調査日	発見区域				
II	27.6.20	A				
特徴	体長は20～40mmのカミキリの仲間、7月頃出現、関東以西～口永良部島間分布、成虫は広葉樹の樹皮や樹液を吸い、幼虫はマツ科の根茎等を食べる。					
雑木林視点	広葉樹と針葉樹の混成林の雑木林内に生息する。また林縁部の街灯等に飛翔することもある。					

昆虫	3	H27年	春	3	種類	ヨコヅナサシガメ
						
班名	調査日	発見区域				
I	27.6.20	A				
特徴	体長16～24mmのカメムシの仲間、昭和初期に東南アジアから九州に入り、平成初期に入ってから関東に出現、サクラ、ケヤキ等の樹幹に集団で生息、幼虫、成虫ともにケムシの体液を吸い生息する。					
雑木林視点	サクラ、エノキ、ケヤキ等が混成する雑木林が生息地となっている。					

2 森の中に入っていこう

(7)野鳥を見よう

野鳥を発見した場所(概要)		調査歴	区分	調査日時	天気・温度	班
			調査	平成28年3月12日9時30分	曇・12度43%	I・II



N
↑

(注意)
調査地の森では、土地所有者及び市の同意無しに、動植物及び菌類の捕獲、採取、殺傷又は損傷はできません。

野鳥を見よう	平成28年3月実施	鳥 1	H28年	春	1	種類	シジュウカラ	
								
		班名	調査日	区域				
		II	28.3.12	A				
		特徴	全長15cm位。黒い帽子に白い頬、胸にたらしめた黒いネクタイがある。木の穴に巣を造り、人工的な狭い穴にもよく造る。主に虫・くも・ハエ・バッタ等を食べる肉食系である。					
		雑木林視点	雑木林や公園樹林帯を中心に生息し、採餌場、営巣・繁殖を繰り返す。カラ類の混群で中心的な野鳥。					

鳥 2	H28年	春	2	種類	ヒヨドリ
					
班名	調査日	区域			
I	28.3.12	A			
		特徴	全長30cm位。雌雄同色。くちばしは黒くて先が尖っている。頭部から胴体は灰色で、頬に褐色が見られる。頭部の羽毛が長く、冠羽となっている。果実や花の蜜を食べる。		
		雑木林視点	林や市街地、農耕地、樹林地でも生息する。樹木に営巣し、雌だけが抱卵その間、雄は餌を運ぶ。		

鳥 3	H28年	春	3	種類	メジロ
					
班名	調査日	区域			
I	28.3.12	A			
		特徴	全長12cm。体上部がうぐいす色なのでウグイスと間違われる。目の周りが白いのが特徴。細いくちばしで花の蜜や昆虫食べる。		
		雑木林視点	山地、雑木林や公園樹林帯を中心に生息し、営巣、繁殖を繰り返す。カラ類と共に混群に加わり行動する。		

鳥 4	H28年	春	4	種類	ヤマガラ
					
班名	調査日	区域			
I	28.3.12	A			
		特徴	全長15cm。腹と背が鮮やかな茶色になっている。山地や低山の林に生息し、冬期は平野部の林にも姿を現す。枝に逆さにぶら下がり宙返りもする。主に昆虫や果実を食べる。		
		雑木林視点	山地、雑木林や公園樹林帯を中心に生息、繁殖する。カラ類と共に混群に加わることもある。		

2 森の中に入っていこう

(8)菌類を見よう

菌類を見よう

平成27年6月から平成29年3月実施

菌類を見た場所(概要)



調査歴	区分	調査日時	天気・温度	班
	調査1	平成27年6月20日10時	晴・25度60%	I・II
	調査2	平成28年3月12日10時	曇・12度43%	I・II
	調査3	平成28年4月16日10時	晴・20度40%	I・II

(注意)
調査地の森では、土地所有者及び市の同意無しに、動植物及び菌類の捕獲、採取、殺傷又は損傷はできません。

菌類	1	H27年	春	1	種類	カイガラダケ
班名	II	調査日	27.6.20	区域	A	
特徴	タコウキン科カイガラタケ属、枯れ木や弱った木に重なりながら生える。白色・黄白色。半円形の貝殻のようで細かい環紋がある。					
雑木林視点	雑木林内で広葉樹の切株、枯損木等に発生する。					

菌類	2	H27年	春	2	種類	カワラダケ
班名	II	調査日	27.6.20	区域	A	
特徴	枯れ木や弱った木に群がって生える。青色・黒色・黄色などの同心円の模様がある。					
雑木林視点	雑木林にも発生する。ヒダナシタケ目、多孔菌科の腐朽菌である。					

菌類	3	H27年	春	3	種類	アワタケ
班名	II	調査日	27.6.20	区域	A	
特徴	イグチ科、アワタケ属、傘の径3~10cm、表面はビロード状で黄褐色、時にひび割れ黄色の肉を露出させる。菅孔は帯緑色、傷がつくとやや青変する。					
雑木林視点	夏~秋に、雑木林等の広葉樹下に発生する。					

菌類	4	H27年	春	4	種類	ドクベニダケ
班名	I	調査日	27.6.20	区域	A	
特徴	ベニタケ科、傘は鮮紅色だが雨などで色が落ち白くなることもある。肉は白く軟質。消化器系の中毒を起こす。					
雑木林視点	夏から秋に、針葉樹林及び広葉樹林内の林床に発生する。					

菌類を見よう

平成27年6月から平成29年3月実施

菌類 5 H26年 春 5 種類 ムレオオイチョウダケ



班名	調査日	区域
II	27.6.20	B

特徴 オオイチョウダケに似ているが傘が白色でなく黄色～淡い褐色。傘は40cmになるものもある大型の菌類。古くなると独特の異臭を放つ。

雑木林視点 夏～秋に森林内のコナラ、コジイなどの根もとに発生する。

菌類 6 H28年 春 1 種類 カワラダケ



班名	調査日	区域
I	28.3.12	B

特徴 枯れ木や弱った木に群がって生える。青色・黒色・黄色などの同心円の模様がある。白色は脱色された状態のもの。

雑木林視点 雑木林にも発生する。ヒダナシタケ目、多孔菌科の腐朽菌である。

菌類 7 H28年 春 2 種類 タマキクラゲ



班名	調査日	区域
I	28.3.12	B

特徴 半透明の飴色で、水を吸うと丸くなる。

雑木林視点 雑木林の掃除屋さん。

菌類 8 H28年 春 3 種類 ツチグリ



班名	調査日	区域
I	28.3.12	C

特徴 初夏から秋に林内や崖面で見られる。土栗。大きさは2～3cm。外皮がヒトデのような形に開く。ツチガキ(土柿)ともいわれる。湿度により開閉することから、きのこの晴雨計とも言われる。

雑木林視点 山地の林道斜面や水はけのよい林内にも発生し、雑木林でもみられる。

菌類 9 H28年 春 4 種類 チウロコタケ



班名	調査日	区域
II	28.3.12	B

特徴 キウロコタケ属。半背着性。傘は放射線状に波打ち屈曲、柵状または半円形、多数重なり合い群生する。表面は黄褐色で祖毛が見られ、生育時、きのこに傷をつけると暗紅色の液を出す。

雑木林視点 クヌギ、コナラ等の広葉樹切株、枯れ枝に発生する。雑木林の掃除屋さん。

菌類 10 H28年 春 5 種類 アミガサダケ

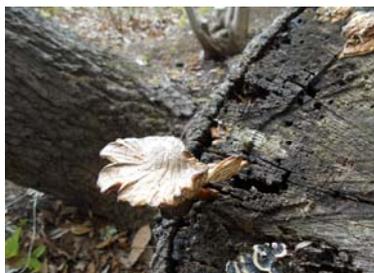


班名	調査日	区域
I	28.4.16	B

特徴 春に腐植の多い地で見られる。大きさは7～15cm。傘は卵形や円錐形で表面に網目がある。色は淡黄褐色や淡黒褐色で肉には弾力がある。内部は空洞になっている。

雑木林視点 山路、野路のふちに発生する。雑木林の斜面のある林縁部にも生えることもあり。

菌類	11	H28年	春	6	種類	ウスキモリノカサ
----	----	------	---	---	----	----------



班名	調査日	区域
II	28.4.16	C

特徴

ハラタケ属。夏から秋ごろ落ち葉の多い地に見られる。大きさは4～15cm。傘は幼児は釣鐘型であるが次第に開いて平らになる。色は淡黄色。無味・無臭である。

雑木林
視点

夏から秋にかけて、落葉の多い雑木林などに発生する。また、竹林のなかでも見られる。

菌類を見よう

平成27年6月から平成29年3月実施

(1)思い出を大切にしよう ～地域の再発見の旅をしよう～

思い出を大切にしよう

平成28年10月実施

森のエピソードの舞台	調査歴	区分	調査日時	天気	班
		調査	平成28年10月29日 13時30分から16時まで	晴れ	I・II

上水新町の保存樹林に限定したお話ではなく全般的なお話を頂戴しました。

森の語り手

○話された人

加藤 シズさん(93歳)、加藤 美智子(娘)さん(国分寺市 在住)

小平市に程近い国分寺市で代々、農家を経営されている方です。現在、娘さんを中心に体験農園を運営されるなど、地域に根差した活動をされています。



森のエピソード1

雑木林のことを山と呼んでいました。山には冬場しか行かず仕事として行く場所でしたので、山で遊んだ思い出はほとんどありません。山の広さは8反あって、2反を1サイクルとして伐採していました。木の太さはノコギリで切れる程度で、あまり太くはありませんでした。伐採した木はリアカーで自宅まで運び、薪として自前で使ったり、売ったりもしました。周りは五日市街道沿いに屋敷があり、その裏に畑があって、玉川上水沿いに山がありました。

森のエピソード2

山の作業では大きな籠を持って行って落ち葉を熊手などでかき集め、籠いっぱい詰めて、リアカーで午前と午後、自宅まで運びました。昔の野道は状態が悪いので霜解けでリアカーに土が付いて押すのが大変でした。落ち葉は鶏糞を混ぜて畑の肥料に使っていました。

森のエピソード3

山にはナadeshiko、オミナエシ、シュンランが咲いていたのを記憶しています。

森のエピソード4

山の作業は冬で寒い時期なので、火を焚いてお茶を飲んだり、さつまいもを食べたり休憩をとりました。

森のエピソード5

畑でさつまいもをたくさん作っていましたが、さつまいもを作るのに山から出た堆肥を利用していました。

森のエピソード6

昔は養蚕をしていました。繭が高く売れるため、養蚕業が盛んでしたので、桑畑がまわりに多かったです。蚕にあげる桑の残った木の枝も薪として利用しました。

森のエピソード7

昔は用水のことを川と呼んでいました。砂川三番から分かれてきた川が家の裏に流れていて洗濯物や鍋釜を洗っていました。飲み水は共同井戸を使っていて、井戸からバケツで運んでいました。

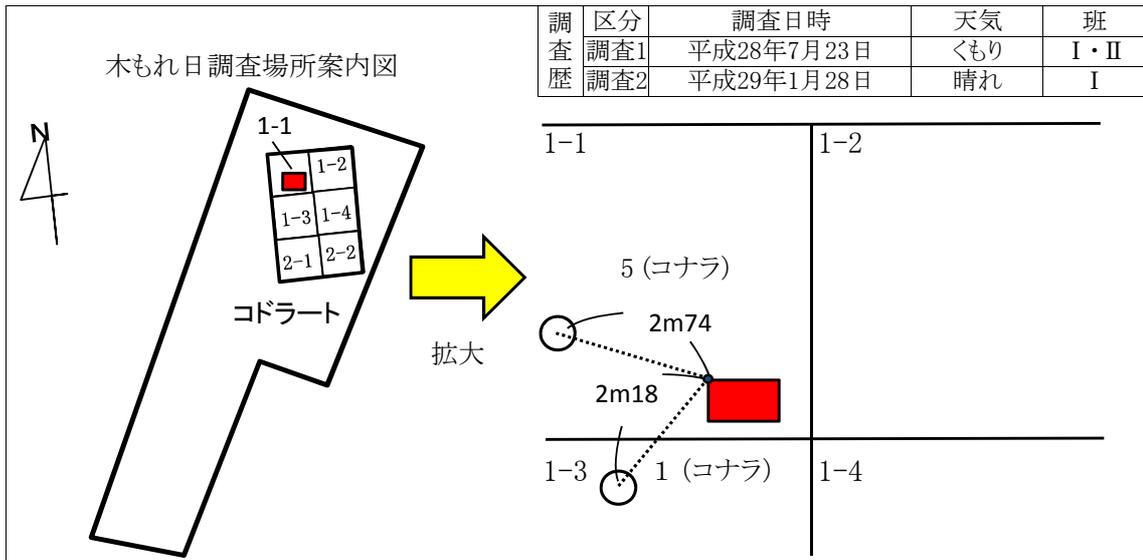
3 森のふれあいを大切にしよう

(2)森を感じていこう

①木もれ日を感じよう

木もれ日を感じよう

平成28年7月・平成29年1月実施



○木もれ日調査とは何でしょう。

雑木林で見られる木もれ日の明るさについて調査をしていく。明るさは、照度計などの計器による計測も大切であるが、木もれ日の明るさの雰囲気は表現しづらいものである。ここでは、気持ちよく感じる木もれ日の計測といった感覚的で個人差がある調査について、あえてチャレンジしてみた。まずは、新緑の季節に太陽がなるべく真上の位置になる時間帯で、木もれ日が気持ちよく感じられる箇所を選ぶ。そこに1平方メートルぐらいの大きさの模造紙を置き、木もれ日が当たっていない樹木や葉の影部分をだまかに着色する。(写真を撮影して、午後の振り返り作業の時にパソコンに写真を取込み、その写真画像にグリッド線といった方眼線を入れて割合を算出する方法もある。今回はこの方法でやってみた。) 1区画全体に対する着色されていない部分の割合を目視によりだまかに決め、全区画の平均値を出すことで木もれ日の情報として蓄積していく。

○具体的な方法

- *1 木もれ日の気持ちよいイメージの場所を雑木林調査隊で話し合って決める。
- *2 模造紙の天地を方位計の南北線に合わせる。
- *3 決定した場所の近くのブロック角などのある程度固定された目印2カ所から模造紙の角(任意の1箇所)までの距離を測っておく。このことで、次回同じ場所で復元して調査ができるようになる。
- *4 決定した場所の、温度や照度などを計測する。
- *5 決定した場所の写真を撮影する。撮影箇所の遠景と近景、撮影場所に立って、東西南北の上空の写真を撮影することで当日のイメージを画像で記録しておく。
- *6 決定した場所に段ボールを置く。
- *7 段ボールの上に模造紙を置き、何班かに分けて影を記録する。(影の輪かくだけを鉛筆で黒く塗る。)時間の経過で影は刻々と変化するので速やかに記録すること。今回は、上部から木もれ日の写真を撮影し、午後の振り返り作業でパソコン処理して割合計算する方法で行った。
- *8 終了時に集合写真を撮影する。
- *9 地域センターなどの調査ベースに戻ってから振り返り作業を行う。模造紙を適当に分割して、影の縁内を鉛筆で黒く塗る。1コマの何割が影か目視で割合を出し、1コマごとにエクセルで集計する。今回は43頁のようにパソコンに取り込んだ画像上にグリッド線といった方眼線を加工し、画像を見ながら1コマずつ影を判定していく。
- *10 全体の影の割合を集計する。100%から影の割合を差引いた数値が、小平風の「気持ちよく感じる木もれ日率」となる。

(調査作業)

調査1:平成28年7月23日

調査1では天候が曇りだったため、木もれ日率等の調査は出来なかった。
決定した場所を復元できるようにすることで調査毎に木もれ日率を計測して変化等を記録することが出来る。
木もれ日調査は天候に左右されたため、調査のたびに準備しておくことが大切である。



調査2:平成29年1月28日

調査1では木もれ日率等の調査ができなかったため、調査2を実施した。
夏と冬では木もれ日の出かたが違うので注意が必要である。一般的に冬は夏に比べ木もれ日の割合が高い。
冬の木もれ日はスプリングエフェメラルと呼ばれるカタクリやニリンソウなどの草花にとって、春に花を咲かせるためにとても重要である。

木もれ日を感じよう



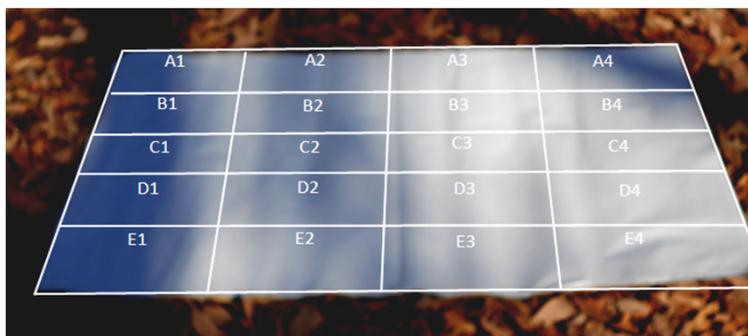
調査場所の遠景(西の方向)



調査場所の遠景(北の方向)

平成28年7月・平成29年1月実施

(調査結果)



(目視による集計作業)

振り返り作業で、写真をパソコンに取り込み、写真の上にグリッド線(方眼線)を描き区域を区分する。

○結果を入力して「木もれ日率」を算出してみましょう。

調査日	平成29年1月28日	時間	午前10時40分	天気	晴れ	風	あまりない
温度	10度	湿度	39%				

全体のコマ数(A) 20

区分	1	2	3	4	合計
A	0.65	0.8	0.1	0.6	2.15
B	0.7	0.85	0.1	0.15	1.8
C	0.75	0.85	0.1	0.05	1.75
D	0.85	0.85	0.1	0.05	1.85
E	0.9	0.7	0.15	0.1	1.85
合計	3.85	4.05	0.55	0.95	9.4

「木もれ日率」は 53%

(算式)

影割合 $9.4 \text{コマ} \div 20.0 \text{コマ} = 0.47 = 47\%$

木もれ日率 $100\% - 47\% = 53\%$

木もれ日を感じよう

平成28年7月・平成29年1月実施

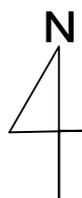
木もれ日の空～
調査地の上空を撮影



北の空



西の空



東の空



南の空



撮影日：平成29年1月28日

3 森のふれあいを大切にしよう

(2) 森を感じていこう

② 森の宝物を発見しよう

森の宝物を発見しよう

平成27年6月から平成29年3月実施



調査歴	区分	調査日時	天気・温度	班
	調査1	平成27年12月6日11時	晴・16℃/38%	I・II
	調査2	平成28年3月12日11時	曇・12℃/43%	I・II
	調査3	平成29年1月28日11時	晴れ・10℃/39%	I

区分	内容	調査日	特徴	発見場所	周りの状況
宝物1	黄葉と空	1	この年は暖冬でした。12月に20度越える日も。	B区域の東側	12月中旬まで紅葉が見れる暖冬であった。
宝物2	紅葉たちの協演	1	紅葉と黄葉の協演。	B区域の真ん中	クヌギやコナラが多いので黄葉が多いが、紅色はととても映える。
宝物3	編まれた鳥の巣	2	ヒサカキに作られた直径15cm位の鳥の巣。	A区域の北側	冬の常緑樹は小鳥の隠れ場所や営巣地となっている。
宝物4	蔓の紅葉	3	光を求めて上の方へ登っている。	B区域の南側	落ち葉が積もる中、健気に幹をつたっていた。
宝物5	森のじゅうたん	3	木もれ日模様の日差しが南東からさしている。	B区域の東側	東側から撮影した。落ち葉で埋め尽くされていた。
宝物6	小鳥の小休止	3	切り株のうえで静かにエサを探している様子。	C区域の東側	冬場でエサを探すのは難しい状況である。

宝物1 黄葉と空



暖冬で12月になっても黄葉が見られた。

宝物2 紅葉たちの協演



紅葉と黄葉が協力しながら、カサカサ音をたてて協演。

宝物3 編まれた鳥の巣



近くにはメジロ達が飛んでいた。

宝物4 蔓の紅葉



エゴノキによじ登ったサネカズラに紅葉が見られた。

宝物5 森のじゅうたん



木もれ日模様の森のじゅうたんがふわふわしている。

宝物6 小鳥の小休止



ツグミが切り株のうえで静かにとまっていた。

3 森のふれあいを大切にしよう

(2)森を感じていこう

③森の音を聞いてみよう

調査歴	区分	調査日時	天気・温度・湿度
	調査	平成28年 4月16日10時	晴・20℃/40%

これは、雑木の森の音を身体で感じてみようというプログラムである。日頃、情報機器や街並みの雑音の中で生活している我々は、雑木の森の息づかいを感じづらい生活をしている。5分間で良いので、耳を研ぎ澄ませて音を聞いてみよう。小鳥のさえずりや風の音、葉の音などを言葉にしてみよう。

(ルール)

- ①何を見つけても声に出さない。
- ②ジェスチャーで会話する。
- ③鳥や昆虫の場合は刺激しないように近寄る。
- ④音を記録したり、映像を簡単に記録する。



森の音を聞いてみよう

平成28年4月実施

聞こえたもの
鳥の鳴き声(カラス→カアカア)
鳥の鳴き声(コゲラ→ギイギイギイ)
鳥の鳴き声(エナガ→チリリリリ)
鳥の鳴き声(オオタカ→ケツケツケツ)
鳥の鳴き声(ヒヨドリ→ピーピッピッピッ)
鳥の鳴き声(シジュウカラ→ツピッピッピ)
風の音
ジェット機の飛行音
車やオートバイの通過音
遠くの救急車のサイレン
金づちの音
子どもの声



4 森の歴史 (番号:2 代表所在地:小平市上水新町1丁目1379番5 他)

この森の周辺や東京に関係する主要な歴史を記録してみた。

年代	時代	内 容
慶長初め頃	江戸	青梅街道、五日市街道が通じる。
慶長 8年 (1603年)	江戸	徳川家康、江戸幕府を開く。
承応 3年 (1654年)	江戸	玉川上水ができる。
明暦元年 (1655年)	江戸	野火止用水ができる。
明暦 2年 (1656年)	江戸	小川九郎兵衛が小川新田(現在の、たかの台、小川町1・2丁目、小川東町、小川西町及び栄町)の開拓を願い出る。享保9年に小川新田が開発されてからは小川村と呼んだ。
享保9年 (1724年)	江戸	小川新田が小川村の村請負新田として開発された。現在の上水新町、喜平町、学園西町、学園東町、仲町及び上水本町の一部を含めた区域が該当する。
慶応 3年 (1867年)	江戸	大政奉還が成立した。
明治元年 (1868年)	明治	「江戸」が「東京」と改まった。
明治 3年 (1870年)	明治	新堀用水ができた。
明治 5年 (1872年)	明治	今の小平の全地域が神奈川県に編入された。
明治の初め～中頃	明治	この頃に作成されたとされる「小川新田字上水向」という古地図では、この森の地番の脇に「山林」と記載されておりこの時代にも雑木の森だったことが推測される。
明治22年 (1889年)	明治	小平村が誕生した。
明治26年 (1893年)	明治	小平村も含めた三多摩が東京府に編入した。
明治27年 (1894年)	明治	川越鉄道(現在の西武国分寺線、国分寺から久米川)が開通した。
大正12年 (1923年)	大正	関東大震災があった。
昭和 2年 (1927年)	昭和	西武鉄道(現在の西武新宿線、高田馬場から東村山)が開通した。
昭和 3年 (1928年)	昭和	多摩湖鉄道(現在の西武多摩湖線、国分寺から萩山)が開通した。
昭和14年 (1939年)	昭和	第2次世界大戦が始まった。
昭和18年 (1943年)	昭和	東京都制施行、「東京府」が「東京都」となった。
昭和19年 (1944年)	昭和	「小平村」が「小平町」となった。
昭和20年 (1945年)	昭和	東京大空襲(3月11日)があった。終戦(8月15日)をむかえた。
昭和21年 (1946年)	昭和	東京都薬用植物園が設立された。
昭和25年 (1950年)	昭和	西武拝島線の一部である小川から玉川上水間が開通した。東大和市駅は青梅橋という駅名であったが昭和54年(1979年)に現在の名称に変更している。
昭和33年 (1958年)	昭和	西武線の小平から萩山経由の多摩湖(現西武遊園地)間が開通した。
昭和36年 (1961年)	昭和	武蔵野美術大学が開校した。
昭和37年 (1962年)	昭和	「小平町」が「小平市」となった。西武拝島線の一部である小川から萩山間が開通した。
昭和41年 (1966年)	昭和	小平・村山・大和衛生組合ごみ焼却場が完成した。
昭和43年 (1968年)	昭和	西武拝島線の全線である小平から拝島間が開通した。
昭和52年 (1977年)	昭和	都立小平西高校が開校した。
昭和57年 (1982年)	昭和	この森が保存樹林に指定された。
昭和60年 (1985年)	昭和	上水新町地域センターが開所した。上水新町地域センター公園が開園した。
昭和61年 (1986年)	昭和	南台樹林公園が開園した。
平成 23年 (2011年)	平成	きつねっばら公園が開園した。

* 歴史については市民便利帳の「小平市年表」、小平市立図書館ホームページの「子ども郷土資料」、「小平町誌年表」、「小平市30年史年表」及び「西武鉄道会社要覧2016」を参考に作成した。

5 森のカルテづくりに関わっていただいた皆さま (番号:2 代表所在地:小平市上水新町1丁目1379番5 他)

(1) 小平市森のカルテづくりアドバイザー

	アドバイザー氏名	所 属
1	椎名 豊勝	一般社団法人日本樹木医会会長
2	山田 眞久	NPO法人東京どんぐり自然学校理事長

(2) 第三次雑木林調査隊のメンバー

	調査委員氏名	隊員期間
1	秋田 良吉	平成27年6月20日 ～平成29年3月31日
2	安部 陽一郎	平成27年6月20日 ～平成29年3月31日
3	飯島 太平治	平成27年6月20日 ～平成29年3月31日
4	市瀬 裕介	平成27年6月20日 ～平成29年3月31日
5	入江 篤子	平成27年6月20日 ～平成29年3月31日
6	岩下 三香子	平成27年6月20日 ～平成29年3月31日
7	榎林 邦彦	平成27年6月20日 ～平成29年3月31日
8	海老原 江美子	平成27年6月20日 ～平成29年3月31日
9	川崎 啓子	平成27年6月20日 ～平成29年3月31日
10	小林 清	平成27年6月20日 ～平成29年3月31日
11	小山 則之	平成27年6月20日 ～平成29年3月31日
12	坂本 一夫	平成27年6月20日 ～平成29年3月31日
13	白井 進	平成27年6月20日 ～平成29年3月31日
14	竜口 伊・	平成27年6月20日 ～平成29年3月31日
15	田中 稔	平成27年6月20日 ～平成29年3月31日
16	富澤 克禮	平成27年6月20日 ～平成29年3月31日
17	長谷川 正孝	平成27年6月20日 ～平成29年3月31日
18	広島 晃一	平成27年6月20日 ～平成29年3月31日
19	深瀬 輝美	平成27年6月20日 ～平成29年3月31日
20	古頭 一夫	平成27年6月20日 ～平成29年3月31日
21	星 貴美子	平成27年6月20日 ～平成29年3月31日
22	松根 滋廣	平成27年6月20日 ～平成29年3月31日
23	水村 光男	平成27年6月20日 ～平成29年3月31日
24	吉田 嘉文	平成27年6月20日 ～平成29年3月31日
25	和田 元治	平成27年6月20日 ～平成29年3月31日

(3) 第三次雑木林調査隊の森の調査活動

		調査活動内容と調査参加者
第1回		平成27年6月20日(土) 歩測による雑木林面積算出・草花調査
	I 班	入江・榎林・白井・田中・富澤・広島・深瀬・古頭・吉田
	II 班	秋田・安部・小林・小山・坂本・竜口・長谷川・松根・水村・和田
第2回		平成27年8月22日(土) コードラートの選定設置・樹木調査
	I 班	市瀬・岩下・川崎・小山・坂本・竜口・星・水村・和田
	II 班	入江・海老原・小林・田中・富澤・広島・古頭・吉田
第3回		平成27年12月6日(日) コードラートの再確認・毎木調査・萌芽の剪定・宝物探し
	I 班	市瀬・岩下・坂本・竜口・星・松根・水村・和田
	II 班	秋田・安部・海老原・白井・田中・富澤・広島
第4回		平成28年3月12日(土) 樹木調査・草花調査・野鳥観察・萌芽の観察・宝物探し
	I 班	秋田・海老原・小林・竜口・長谷川・広島・古頭・吉田
	II 班	安部・市瀬・入江・白井・富澤・星・和田
第5回		平成28年4月16日(土) 草花調査・萌芽の観察・森の音を聞いてみよう
	I 班	市瀬・榎林・小林・坂本・竜口・長谷川・深瀬・星・水村
	II 班	秋田・入江・海老原・小山・白井・田中・古頭・松根・和田
第6回		平成28年7月23日(土) 樹木調査・萌芽の観察・木もれ日調査
	I 班	入江・小林・白井・富澤・水村・和田
	II 班	岩下・小山・坂本・竜口・田中・吉田
第7回		平成28年10月29日(土) 思い出調査
	班 分 けなし	秋田・入江・小山・坂本・白井・田中・広島・星・松根・水村・和田
第8回		平成29年1月28日(土) 未実施項目の調査(木もれ日・森の外観・落葉)、調査全期間の振り返り
	I 班	安部・岩下・小林・白井・星・水村・和田・松根
	II 班	秋田・入江・榎林・海老原・小山・竜口・田中・吉田

森のカルテ 上水新町保存樹林編

平成29年12月発行

発行 小平市環境部水と緑と公園課

所在 〒187-8701
東京都小平市小川町二丁目1,333番地

電話番号 042-346-9830

電子メール koen@city.kodaira.lg.jp

¥750

この冊子は再生紙を使用しています